



レジンについて

レジンとは、日本語で「樹脂」と言います。レジンには、色々な種類があり、太陽光で固まるレジン液や、二つの液を決まった分量で混ぜ、時間が経つと自然に硬化する（固まる）レジン液もあります。レジンには、透明度が高く、アクセサリ作りによく使われています。レジンのいいところは、推しがいて、その推しのグッズなどを自分の思うままに、自由に作れます。

レジンの使い方・注意点

注意点

レジンには、素手でやると、アレルギーになってしまう可能性があるのです。やる時は、手袋をしてやる必要があります。（手袋は、使い捨てがおすすめです。）また、匂いも少々きついですので、換気をして行います。（手袋をしていてもレジニアレルギーになる事があります。）

レジニアレルギーの症状

皮膚の湿疹、蕁麻疹、水ぶくれ、かゆみ、赤み、痛みなど

使い方

UV-LEDレジンの場合

UV-LEDレジンとは、UVライト、LEDライトで固まるレジン液です。手袋をはめ、レジンを用意します。色をつけたかったら、着色剤で色をつけます。着色剤の入れすぎや、不透明な（透明じゃない）色は、しっかり固まらない原因になるので、薄く塗って硬化を繰り返すことをおすすめします。シリコンモールド（シリコンの型）を用意し、モールドに流し込みます。UVライトまたはLEDライトまたは太陽光などを当て、硬化します。レジン液によりませんが、だいたい3分ほど裏表から当てたらしっかり固まります。そしてモールドから取り外したら完成です。

2液性レジン（エポキシ樹脂）の場合

2液性レジンとは、UV-LEDレジンとは違って、二つの液を決まった分量でよく混ぜ、ライトなしで、時間が経ったら固まるレジン液です。2液性レジンとは、UV-LEDレジンとは違って、1gあたりの値段がとても安いです。使い方は、UV-LEDレジンとほとんど同じで、手袋をはめ、デジタルスケールでレジン液の量を測り、カップで混ぜます。2液性レジンの場合は、白いモヤモヤがなくなるまで、しっかり混ぜます。この時、しっかり混ぜておかないと、硬化不良と言ってレジン液がしっかり固まらない可能性があるのです。また、レジン液を混ぜる量を間違えると、しっかり固まらない原因になります。しっかり混ぜれば、好きな色にUV-LEDレジンと同じ着色剤で色をつけます。2液性レジンとは、ライトを当てなくてもいいので、不透明な色でも大丈夫です。モールドに流し込み、埃除けをして、決まった時間硬化させます。時間は、レジン液や、メーカーによるので、気をつけてください。モールドから取り外したら完成です。

レジンでつくれるもの

レジンには、いろいろなアクセサリが作れます。レジン用の枠が100均などに売っていて、枠にレジン液を流し込むことで作るアクセサリもあれば、シェイカーと言って、レジンで枠を作り、

その中にビーズなどを入れ、枠の形に合わせて切ったフィルムをレジン液で貼り、シャカシャカするようになるものもあります。

UV-LEDレジンのタイプについて

UV-LEDレジンには、ハードタイプという物と、ソフトタイプという物があります。ハードタイプは、硬くて、プラスチックのような物です。ソフトタイプは、とても柔らかく、ぶにぶにしています。ソフトレジン（ソフトタイプのレジン液）は、曲線のある金具との相性もいいです。また、ソフトレジンは柔らかいので、硬化した後、ハサミやカッターで切ることもできます。一般的には、ハードレジンが使われています。

このように、レジンは、少し危険ではありますが、いいところもたくさんあります。なので、興味があれば、材料は大体が百均で揃うのでやってみてください。